



2021年12月27日

日本鉄道労働組合連合会

航空連合とJR連合による合同勉強会を開催！



JR連合は11月29日、航空連合との勉強会を開催し、コロナ禍でそれぞれの産業が置かれている現状を共有するとともに、生じている課題やそれに対する取り組みなど、広範に意見交換を実施した。

航空連合とJR連合とは現在、3産別（JR連合・サービス連合・航空連合）での各種協働行動を実施するなど、連帯を

深める関係性にある。とりわけ航空産業については、中長距離輸送を担っているという点ではJR産業と業態が近く、人流抑制に伴いかつてない経営危機に陥っているという状況もまた近いものがある。

勉強会の冒頭、それぞれの産業が置かれている現状や、その中での取り組み等について共有を図り、続いてそれぞれの産別の個別の取り組みに焦点をあて、意見交換を実施した。

まず、JR連合からは、航空業界において雇用対策で多くの組合員が全く異なる業界へ出向していることについて、その現状や労使での取り組み、さらに昨今増えている離職者への対応等について質問した。これに対して航空連合からは、例えば日本航空ではこうした出向者のケアを行う部署が立ち上がり、労使で組合員のフォローに取り組んでいるといった話がなされた。



一方、航空連合からは、JR連合における組織課題や組織強化の取り組みに関する質問がなされ、いわゆる民主化闘争の取り組みやJR他産別の状況等にも言及する形で説明を行った。航空産業においても航空連合とは異なる産別が存在しているとのことで、そういった組織課題についてもJR連合と共通するものがあることがあらためて明らかとなり、有意義な意見交換を行うことができた。

JR連合では、引き続きこうした産別間の連携強化を図ることで組織強化を図るとともに、産業政策・労働政策の知見を深め、政策実現力の強化に努めていく。